

夏号 みどり通信

発行 21 世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
 連絡先 〒963-8876 郡山市麓山 1-16-17
 TEL 924-2194 FAX 924-2195

◆みどりの教室◆ …参加費 無料

□季節の寄せ植え

日時：9月2日(日) 10:00~12:00

場所：郡山石筵ふれあい牧場

定員：20名

申込期間：8/16(木)~8/25(土)

申込先：21 世紀記念公園へ電話または窓口まで

◆みどり講習会◆

7、8月のみどり講習会は、ありません。

次回は、9月16日(日)です。

講習のテーマは「ボタン、シャクヤクの剪定と植込み」です。

予約不要、受講料無料です。

お気軽のお越しください。



My ガーデニング …季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

梅雨の間は降雨があれば水やりの心配は少ないですが、鉢植えや植え替えて間もない場合は乾燥の状態を確認する必要があります。本格的に気を使うのは梅雨明け後になります。それまでの降雨により、軟弱気味になっていると、強い陽射しと高温により、弱ってしまうことがあります。水やりはこまめにたっぷりと与えます。夏の間は日中の暑い時間を避けて朝のうちにあげるようにします。その時には樹冠全体にあげ、蒸散を抑えます。萎れるとその後の成長が阻害され、秋の紅葉も楽しめなくなります。ツツジ類などのような浅根性の植物は乾燥に弱いです。土壤の乾燥を防ぐ為には、腐葉土などを土に混ぜ込み保水力を高め、表土には腐葉土を敷いて乾燥を抑えます。乾燥の害から植物を守り育てるには遠く深くに根を伸ばす事が大事です。その上でも土壤が一番大事です。



【植替え】

多くの樹木に共通している良い土壤は、赤玉土 6~7割、腐葉土 3~7割が基本用土です。土壤は透水性、通気性、保水性、保肥力などが大切です。市内で多く利用される山砂は決して良好な土壤ではありません。これからの季節は植替えには適しません。常緑樹は秋の彼岸頃まで待ちます。落葉樹はさらに遅く落葉後に行います。ただしボタンやシャクヤクは 10 月に植替えを行います。

【肥料】

樹木にはこれからの季節はあげません。あげる事によって害が出てしまいます。一・二年草の草花も梅雨明け後は控えめにします。

【病虫害】

(アメリカシロヒトリ)

6 月中旬から発生しています。昨年は久しぶりに大発生し、今年もまた心配される状態です。ただし、この虫は一般的に触れても痒みなどの症状は出ないようです。孵化した時期の拡がらないうちに取り除くことが一番の防除です。枝ごと切って退治する人を見かけますが、樹形が乱れてしまいます。薬剤に弱い害虫です。今の幼虫が蛾になりまた卵を産み付け 8 月には二回目の発生があります。

(アブラムシ類)

多くの植物の新梢にびっしりと付いているのを見かけます。そうすると、葉が縮れたり、変色したりして芽の成長が止まってしまいます。そして、ウイルス病の媒介、排泄物にアリが寄って来る、スス病が発生するなど、厄介な害虫です。薬剤での退治が一般的ですが、同じ薬剤を使い続けると効果が出にくくなります。

(カイガラムシ類)

カイガラムシは、多くの種類が存在し、外観も大きく違います。ただ防除が厄介な害虫です。幹や枝葉に着生し、吸汁して弱らせます。また、アブラムシと同じくスス病が発生します。マツ類やサルスベリへの発生が多く見られ、被害も深刻です。カツラマルカイガラムシも広く多くの樹種に発生し、樹勢を衰退させます。この虫は見つけにくい虫です。カイガラムシの退治方法は、孵化したばかりの時期の薬剤散布やブラシなどでこすり落とします。

(カミキリムシ)

果樹のイチジクやカエデ類などに甚大な被害が発生します。マツノマダラカミキリもそれがマツノザイセンチュウを運び、松枯れをおこします。この害虫も退治をする事が面倒な種類です。まだ福島県では見つかってはいませんが、クビアカツヤカミキリも厄介な外来害虫です。バラ科の植物に害をあたえ、枯死させてしまいます。ソメイヨシノが絶滅してしまうのではないかと心配されています。カミキリムシの防除方法は、樹体内にいる幼虫の場合、フラスの出ている穴から薬剤(スプレータイプなど)を注入します。成虫は補殺するか、薬剤散布によって退治します。害虫防除は日頃から観察して発生初期に退治する事が一番です。薬剤の場合は使用方法を守る事が大切です。一般的に殺虫剤は予防効果があるものが少ないのが現状です。

(うどんこ病・黒星病)

うどんこ病は 5 月頃から多くの植物に発生しています。梅雨明け後からまた発生が広がります。また、バラは黒星病が毎年発生しやすいので、もし発病していたら早めに対処してください。



(うどんこ病)

落ち葉や病気の発生した枝葉は綺麗に掃き集め、処分することが、次の病気の発生を防ぎます。病気は予防が第一です。発生しやすい時期が近付いたら早めの薬剤散布などが大切です。ただ薬剤散布に頼りたくない場合は、その植物を丈夫に育てる事です。そうすれば抵抗力が増し、発生を少なくする事が可能と思われれます。

【剪定】

常緑広葉樹の剪定は、込み入っている枝や徒長枝を切ります。ただし、切る位置によって、その後の伸びが変わってきます。弱い芽の所では剪定をしないようにします。秋から咲きだす樹木は切り方によって花芽を落してしまいます。ただし、常緑広葉樹といっても切り過ぎてしまわないようにします。幹に強い直射日光があたって幹焼けをおこし、南側が枯れてしまう事もあります。

落葉樹は弱めの剪定に留めます。徒長枝や弱った枝を整理しておくだけの方が無難です。本格的な剪定は落葉後まで待ちます。

針葉樹の刈込剪定は早めに終わらせます。刈込後は直射日光によって葉焼けをおこす可能性が大了。マツ類は樹形を整えるために新梢を切り詰めるだけにしておきます。昨年までの葉をむしり取る人を見かけますが、樹勢を弱めて松枯れの原因になります。剪定後は灌水を樹冠全体に行い暑さから守ってあげます。

♪みどりのつばやき♪

園内の花壇も夏の装いになりました。春とは違う花々をお楽しみください。

